

# poco a poco

パラグアイ便り 2023/12/01 Número10

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

## 【中間報告会が終わりました】

おおよそ任期の半分を終えたタイミングで自分の活動を振り返り、来年度どのように活動していくかを“中間報告会”で発表しました。JICA海外協力隊だけでなく、それぞれの活動先の上司や省庁関係者も集まる公式行事でスペイン語で報告しました。無事に終わってほっとすると同時にパラグアイでの10ヶ月があっという間に経過したことを実感しました。パラグアイへ到着する前、2年なんてあっという間だろうなあと感じていましたが、その予想を遙かに上回るスピードで時が流れているように感じます。先輩隊員によると2年目は更に時間の体感速度が加速することです。後悔することのないように一日一日を大切に過ごしていきたいです。



中間報告会の様子

## 【パラグアイ人の相棒が日本へ！！】

配属先で直接的に一番お世話になっている同僚がJICAの奨学金制度に合格し、現在、特別支援教育について日本で研修を受けています。私や彼女自身、また彼女の家族、同僚たちにとっても、大変喜ばしいビッグニュースです。私としても、日本の教育制度について知ってもらえることはもちろんですが、大好きな自分の国“日本”について知ってもらえることが嬉しくて仕方がありません。いつか日本へ来てほしいと話をしていましたが、まさかこんなにも早く夢が叶い、しかも私が帰国するよりも早く日本へ行くことになるなんて思ってもみませんでした。直接紹介したり案内したりすることができないことは残念ですが、彼女の口から日本の話を聞けることが楽しみでなりません。日本へ到着して早々「空港がとても綺麗。あなたの国は素敵ね。」と、写真を送ってくれました。また「話は聞いていたけれど、日本は寒すぎる。上着が足りない!」「これから電車で移動することが楽しみ!」「ディズニーランドへ行ってみたい!」などといったメッセージが届きました。私がパラグアイで感じているように、外国人だからこそ感じられる日本の強みや弱みがあるはずです。彼女がパラグアイへ戻り、直接話ができる日が待ち遠しいです。



家族や親戚のみなさんと一緒に空港までお見送りに行きました。泣きながら別れを惜しむ姿が印象的でした。

家族や同僚も彼女とメッセージのやり取りをしています。時差が12時間あることや季節が反対であることなどを改めて実感し、それらの違いを楽しんでいる様子です。普段より日本について質問されることも多くなり、私も嬉しいです。

### 【バラグアイの家庭料理】

“バラグアイ人の主食は肉”と言われているほど、バラグアイの人たちは本当にたくさん肉を食べる習慣があります。また肉に限らず、一日に5食を食べる“食べるのが大好きなバラグアイ人”のみなさんは『お腹が空いた!』『これから何を食べるの?』と食べ物についての会話も多いです。私自身、日本人女性にしてはよく食べる方だと思っていましたが『花純はちっともご飯を食べない。日本人は全然ご飯を食べないから太っている人が少ないのか?』などと言われているくらいです。分厚い肉を焼いて食べるバラグアイ版バーベキュー(アサード)も美味しいですが、今日はバラグアイで食べている家庭料理を写真で紹介しようと思います。バラグアイ料理、どれも美味しくて私は大好きです。



### 【ひとこと】

私が日々向き合っている相手は、バラグアイ人やバラグアイの文化であることに間違いありません。しかしそれ以上に“自分自身”と向き合っているように感じています。日本での“当たり前”は、バラグアイでは決して“当たり前”ではありません。日本では意識したことのなかった自分の中に確立されている価値観に気付かされることの多い毎日です。自分は何に惹かれ、何に興味を持たないのか。何に寛容で、何を許すことができないのか。どの程度のストレスならかわすことができるのか。・・・このように、自分の好き嫌いなどの簡単な事柄から、生きる上で大切にしている信念のようなことについても、気付かされます。

バラグアイへ来る前、私はこのように思っていました。それまでの自分の人生観や価値観が良い意味で跡形もなく崩壊するような、そんな刺激的な出来事が起こったら面白いなあ。しかし蓋を開けてみると、確かに衝撃的な出来事ばかりに遭遇する毎日ですが、どこまでも“私は私”でした。むしろ、自分らしさが日々強化されている感じがします。変化や新しいこと、不安定なことを好む私としては、今のところ自分に大きな変化を感じないことは少し残念です。しかし裏を返せば、自分の強みは、場所を選ぶことなく通用すると実感でき、確実に自信に繋がっています。その強みの代表と言えば、何と言っても“心身の健康”と“前向きさ”です。“健康第一”。本当にこれに越したことはありません。心と体は繋がっていると、何度実感させられることでしょうか。どちらかが危うい状況でも、もう一方に助けられるのです。また、負の状況を吹き飛ばす“前向きさ”は、生きることを楽にしてくれます。上手くいったときには“面白い!もつとやろう!”と、上手くいかないときには“悔しい!絶対にできるようになってやる!”と、自分にとって都合良く解釈することで、どんな状況でも自分が輝けるステージを用意することができるのです。どうやら“面白さ”か“悔しさ”が、私の行動の着火剤となるようです。残りの任期の中で自分がどのように変容していくのかは未知ですが、変化があればそれを楽しみ、無ければ自分の強みと捉え、ますますたくましくなっていけたらと思います。バラグアイで様々な経験をし、多種多様な価値観に触れることで、将来実行したいことや夢が増え続ける毎日です。本当に貴重な経験をさせていただいているなあと感じます。